

メールインタビュー 著者に聞く

平林 純さん

著書

『史上最強 科学のムダ知識』

A5判・324頁・本体 1380円 + 税(技術評論社)

「スカシッ屁」が臭いといわれる理由を流体力学的に考察したり、錯視効果を利用してだれもが巨乳に「見られる」ブラジャーを考案したり... あらゆることを無意味なほどに科学するくだらなくも、おもしろい話が盛りだくさん。科学には、こういう楽しみ方もあったんだ!!



> エッチ系、まじめ系、いろんなことが「なぜそうなるのか」をおもに物理学的に解明されていますが、この題材はいつ思いつくのですか？

まじめでおもしろいネタは、まじめな私が、エッチなネタはほかの人が...といたいところですが、ネタはたいてい、誰かと話したり聞いたことを、自分でもう一度考えてみたときに思いつくことが多いです。

> 調べていて、意外な結論が導きだされたりすることはあるのですか？

結論まで考えてから実際の計算や実験に取りかかるので、意外な答えに至ることはないですが、予想どおりの答えでも、それのもつ意味が意外で新鮮だったりして「とってもいいかも!」と思えるときがたまにあります。

たとえば、「14ミリグラムの『色んな気持ち』」や「疑似オッパイ(車の窓から手をだしたときの感触)の関係式」などがそうです。どちらの計算結果もあたり前のものですが、実はその化学式が「息抜き」のコツを表していたり、「オトコは過剰に大

きなバストを求めている」ことを示していたり...。そんな意外な答えが得られると、調べていておもしろいです。〔答えが一番新鮮だったのは、本に収録されていないのですが、「サンタが街にやってくる」という話です。その答えは当初の推測そのものでしたが、そこから導きだされた「サンタの正体」は、とても意外で素敵なものでした(WEBで見ることができます)。〕

> WEBで連載していたものを本にまとめたわけですが、著者としての心境は違うものですか？

WEBでの私は「著者」であり「作者」です。しかし、書籍の作者は編集者で、私は著者であっても一素材。野球でいうなら編集者が「監督」で、私は「一選手」です。ですから、WEBでは個人競技を楽しみ、書籍ではチームプレイを楽しむ感じです。

もちろん、電子媒体から紙媒体に変わるので、特性に応じた内容に変える必要があります(実は、私の本職は紙

媒体の出力機器の開発だったりします)...といっても、書籍化に際して私の要望はただ一つ、「パラパラマンガをつけてほしいです...」だけでした。

> 書店で好評のようですが、どんな点がウケていると思われますか？

書店で本当に好評だとしたら、「人類にとっての科学とは何か」が描かれた、マンガ『岸和田博士の科学的愛情』(講談社)で有名なトニーたけぎさんの筆による、表紙のチカラに違いありません。ええ、絶対にそれ以外考えられません。

> 研究者にとって有意義な「この本の読み方」を伝授してください。

普段の研究や仕事では、「それがいかに社会の役に立つか」を訴え続けなければならないことが多いと思います。たまには、それと真逆のことをして遊ぶ「無用の科学読本」を読みながら、「何の役にも立たないこと」を考えて楽しんでみるとおもしろいはずですよ。

プロフィール

人気サイト「hirax.net」を運営(<http://www.hirax.net>)

略歴：1968年生まれ。京都大学大学院理学研究科前期課程修了。まじめな物理学に憧れていたはずが、気づけば「オッパイ星人の力学」やら「スクール水着の流体力学」など、ヘンでクダラナイ科学を研究し続けるサイトを運営。